

「今月の言葉」と「今月の聖語」せうごについての紹介

今月の言葉

見えないところでつながりあって
生きているのは竹だけではない

とういよしお
東井義雄

竹は一本一本が孤立して、生えているように見えます。しかし、竹は地下茎ちかけいをもつ植物で、実は土の下ではつながっているそうです。

同様に、人は別々に生きているように見えて、実は深いところにつながっています。家族や親戚、親しい友人、学校の先生はもちろん、他のクラスの仲間、近所の人。もしかすると、地球の裏側の人まで。仏教では、一見何の関係もないような人とも、もちつもたれつの関係の中で、生きていると考えます。まさに、「見えないところにつながりあって生きている」のです。これまでも、そして、これからも・・・。

スマホの画面に釘付けのそのあなた。目には見えない大切なことに、一度、思いを巡らせてみませんか。そんなふう^にに今月の言葉は我々に問いかけているのではないのでしょうか。

今月の聖語

きゆうしようわ じねん

宮商和して自然なり

しんらんしようにん
親鸞聖人

「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド」
おなじみの西洋七音階に対して、古来から日本のお経や雅楽ががくでは、「宮・商・角・徴・羽」の東洋五音階とうやうごおんを用います。その中でも、「宮」と「商」の二つの音は、ぶつかり合って聞こえる不協和音ふぎわあおんの関係で、西洋音階でいうドとレのような隣り合う音です。

聖人は今月の聖語を通して、お浄土の世界では、その不協和音が調和していくと示してくださいました。自分の音も相手の音も、ぶつかり合うことなく響き合っていくということでした。新学期がはじまり一ヶ月がたちました。同じクラスやクラブに、色々な仲間がいることが分かってきた時期だと思えます。必ずしも仲良くできる人ばかりではないかもしれませんが、時にはぶつかり合い、「不協和音」が出てしまうこともまったくないとは言えないでしょう。

互いを認め合うべきだと分かっているつもりが、いざ「自分が正しい」と思い込むと、なかなか譲れません。そうしたこの私のあり方を見抜き、放っておけないと、立ち上がられたのが、阿弥陀さまです。

今月の二回の宗教行事を通して、阿弥陀さまのお浄土からメッセージに耳を傾けてみませんか。

宗教教育係